

ECO活動への取組み

環境負荷低減事業

■太陽光発電事業

- ・「RKKソーラーパーク・荒尾」(平成 25・2013 年 10 月より稼働)
- ・環境負荷低減事業の一環として、また遊休地の有効活用手段として、ラジオ送信所(荒尾市)の敷地 14,000 m²の土地を利用した、太陽光発電事業を開始。(20 年間運用予定)
- ・年間予定発電量: 950MWh(最大発電電力 :890kW)
一般家庭に換算すると、約 264 世帯分(1 世帯あたり 3,600kWh として算出)。
- ・太陽光発電で得られた電力は九州電力株式会社に売電。
- ・この取組みを通し、太陽光発電の必要性、安全性を分かりやすく提示し、再生可能エネルギーへの理解を深めてもらう。
- ・本館見学者スペースにおいて、太陽光発電の仕組みや日ごとの発電量などの専用画面を表示。日ごと・月ごと・年間での発電量を数値化、グラフ化するなど、社の取組みを分かりやすく伝えている。同時に、アンテナに設置したカメラで、ソーラー発電所のライブ映像を紹介。ソーラー発電の様子を視覚的にも伝える工夫をしている。
- ・この事業により削減される CO₂の量は、1年間で**373.8t-CO₂**。
(この CO₂削減量は、RKKソーラーパーク荒尾の令和3年(2021)年 4 月～令和4年(2022)年3月の年間発電量956.028kWhに、九州電力株の令和3(2021)年度の CO₂ 排出係数 0.000391t-CO₂/kWh を乗じたもの。)

社内における環境負荷低減活動

■森林資源による削減活動

- ・自社所有の山林の育成、整備と伐採を森林組合と定期的実施しており、分収育林で関係する熊本県林業公社などと連携を図りながら、森林資源の育成と水資源の保全活動に向け山林の養生に努めていく。
- ・所有森林の二酸化炭素吸収量の算出を実施
<(IPCC)に準拠した算式により 2009 年度の実態から独自算出>
熊本放送の所有する山林の二酸化炭素吸収量は、2,999 t-CO₂/年と算出。
※熊本放送の電気・ガス使用による二酸化炭素排出量は、1,010.3t-CO₂/年(令和3・2021 年度)と算出。

■電力・ガスの使用量削減

- ・LED照明を導入。(平成 24(2012)年 6 月～)
- ・テレビ放送送出関係機器(地上波デジタル放送第 1 世代機器)を大幅更新(令和 3・2021 年度末までに完了)、これにより、月間の電気使用量で、30,000～35,000KW、前年同月比で 15%前後の節電を実現。
- ・毎月の電気・ガス使用量と金額をメールで社内周知。

- ・消灯時間設定(昼休み 12時から13時:夜 22時消灯)
- ・土曜・日曜を含め帰宅時に、照明やパソコンなど身の回りにある電気製品の電源スイッチを切り、無駄をなくす節電を実施。
- ・パソコンについては、90分以上使用しない場合、電源を切る。また、休憩時間、会議などで離席する場合はアプリケーションを閉じ、スリープモードを使用。
- ・各部署のテレビ、電灯、空調は、帰宅時には電源OFF。夜間巡回の際に照明、テレビなどの消し忘れをチェックし、該当部署には注意を促す。
- ・クールビズの実施 5月～9月(この前後も気温が高い場合、服装は各自で調整を呼びかけ)
夏季空調室温 28度。及び空調時間設定 9時から 21時まで。
自動販売機のディスプレイ箇所の消灯及びタイマー運転の依頼。(販売会社により自主的に省エネ型に交換されたものもある)
- ・ウォームビズの実施 11月～3月
(この前後も気温が低い場合、服装は各自で調整を呼びかけ)
冬季空調室温 22度。空調用の社内循環温水の温度を下げるによりガス使用量削減。
及び空調時間設定 9時から 21時まで。
- ・エレベーター運行の制限。
平日 9時～19時のみ 2台運行。夜間・休日は必要な場合に限り、事前申請により 2台運行。
※平成 28(2016)年度は熊本地震による業務量の大幅な増大で、夏の冷房や照明の長時間使用も止むなしとしたが、長期的には節電・節ガス傾向はほぼ継続していた。
※令和 2(2020)年 2月以降は、全国的な新型コロナウイルス感染拡大と、社内感染防止のため、1年を通して社内換気を徹底、窓解放による換気も奨励したため、冷暖房効率も若干低下、さらに令和 3(2021)年度ガス空調機の老朽化による不調により、ガス使用量は増加傾向。(本社ビルはガス冷暖房設備が中心のため⇒数年内の空調機更新に向けて検討中)

■その他の燃料・資源の使用量の削減

- ・取材車、営業車などの小型乗用車を中心に、車両更新時に多くをエコカーに変更。
- ・ノートパソコン、タブレット持参で会議出席を励行。紙での文書・資料の配布を削減。
- ・社用車のアイドリングストップの励行。乗り合せの励行。
- ・インクカートリッジのリサイクルなど廃棄物の再資源化。
- ・コピー用紙の削減呼びかけ・不要コピー用紙の裏面活用・両面コピーの励行。
- ・機密文書や使用済み用紙のリサイクルとして、H25(2013)年 11月より溶解処理を採用。古紙のみにとどまらず、廃プラスチックや金属、溶解に使用した水までリサイクルできるシステム。個人情報の漏洩防止と同時に、環境負荷軽減・シュレッダー不使用による節電など多面的な効果を生んでいる。

CO₂排出削減の目標設定について

熊本放送は、メディア企業の社会的責任として、地球環境保護と温暖化防止の取り組みを実施しています。

電気・ガス使用による CO₂排出量の削減目標については、平成 25(2013)年度～29(2017)年度の 5 年間で 5%削減することを目標に取り組みを進めました。その結果、以下の表のとおり、単年度比較で、5 年のうち 4 年で前年比マイナス(初年度は +0.05%)、5 年間で CO₂排出量の減少は、429,6t、24,9%となりました。

※平成 24(2012)年度の CO₂排出量 1,726.7 t-CO₂を最初の基準として計算

目標年度	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	前年比削減率 (%)
平成 25(2013)年度	1,727.5	+0.05
平成 26(2014)年度	1,623.8	-6.39
平成 27(2015)年度	1,424.4	-14.0
平成 28(2016)年度	1,374.5	-3.5
平成 29(2017)年度	1,294.9	-5.8

平成 25(2013)年度から 5 年間で CO₂削減率は $1,726.7 \text{ t} - 1,294.9 \text{ t} = 431.8 \text{ t}$ (25.0%)で目標は達成しました。

※電力使用量ベースでは、 $2,325,720 \text{ (H24 年)} - 2,159,760 \text{ (H29 年)} = 165,960 \text{ kwh}$
 $165,960 / 2,325,720 = 0.071$ 、削減率は 5 年間で 7.1%でした。

※ガス使用量ベースでは、 $139,592 \text{ (H24 年)} - 129,907 \text{ (H29 年)} = 9,685 \text{ m}^3$
 $9,685 / 139,592 = 0.069$ で、削減率は 5 年間で 6.9%でした。

平成 30(2018)年度以降の CO₂削減目標について

熊本放送本社ビルは、平成 10(1998)年から翌年にかけて完成しており、当時の設備機器を大事に使っていますが、新築後 10 年以上を過ぎたところからの機器の故障や老朽化とも相まって、平成 25(2013)年度からの、『5年間で CO₂排出 5%削減』の期間中に、事務フロアを中心に、従来の蛍光灯照明から、普及が進んでいた LED 照明に交換したのをはじめ、他の機器類は、故障交換の時に、省エネ効率が高いことも考慮に入れて機器の取替えを進めてきました。しかし、ハード面での省エネ・CO₂削減効率の伸びは、省エネ技術の確立とともに、今後は緩やかなものになると思われ、その分、社員・スタッフの省エネ意識・エコ意識の更なる醸成など、ソフト面での省エネもさらに進めていくべきものと考えます。

弊社では、冒頭の基本理念、基本指針にも記したとおり、弊社の事業活動での CO₂削減をさらに進めるため、次の 5 年間の CO₂削減目標も、5 年間で 5%削減を目標とします。

目標年度	CO2排出量 (t-CO2)	前年比削減率 (%)
平成 30(2018)年度	1,035.4	-16.2
令和元(2019 年度)	1068.3	+3.18
令和2(2020 年度)	1310.1	+22.6%
令和3(2021 年度)	1010.3	-22.9%

※平成 30 度の CO2削減率は、平成 29 年の CO2排出量 1,294.9 t-CO2を基準として計算

令和3年度

電気使用による CO2排出量 (t-CO2)

$$= \text{電気使用量 (kWh)} \times \text{九州電力発表の CO2排出係数 (0.000391 t-CO2/ kWh)}$$

$$= 1,785,672 \text{ kWh} \times 0.000391 \text{ t-CO2/ kWh} = 698.2 \text{ t-CO2}$$

※熊本放送の年間電気使用量は 1,785,672kwh で、前年比で 15.22%減少しました。

これは、令和2年度後半に、テレビ放送送出機器の大規模更新を実施し、約半年間、新旧2系統の機器に通電する必要があったことで電力使用量は増加。逆に、令和3年度直前に旧系統の機器への通電を停止して使用電力が減ったことと、新系統の機器類の高い省エネ性能により、令和 3(2021)年度は、前年比 15.22%の削減となったものです。

※さらにCO2排出量に関しては、令和2年度に九州電力の火力発電の比率が大幅に高まり、CO2排出係数が 0.000479 に上がったことと、令和3年度は、原子力発電所の稼働により、CO2排出係数が 0.000391 に下がったことも関係しています。

ガス使用による CO2排出量 (t-CO2)

$$= \text{ガス使用量 (m}^3\text{)} \times \text{西部ガスの CO2排出係数 (0.00227 t-CO2/ m}^3\text{)}$$

$$= 137,481\text{m}^3 \times 0.00227 \text{ t-CO2/ m}^3 = 312.1 \text{ t-CO2}$$

(※CO2 排出計数は前年と同じ)

※令和3(2021)年度の冷房期間は、6月、7月と9月、10月の使用量が、前年同月比で大幅に増加、弊社社員・スタッフの体調管理の面からも、設定温度よりも低めの温度での冷房運転を実施したことや、ガス空調機の不調も発生して効率悪化、ガスの使用量は前年度比+3.63%と増加しました。

電気とガス使用による CO2排出量 (t-CO2) の合計

$$= 698.2 \text{ t-CO2} + 312.1 \text{ t-CO2} = \underline{\underline{1010.3 \text{ t-CO2}}}$$

《参考》両社が発表した CO2 排出係数 ※平成 24 年度=2012 年度

《九州電力》	平成 24 年度	0.000599	平成 25 年度	0.000617
	平成 26 年度	0.000598	平成 27 年度	0.000528
	平成 28 年度	0,000483	平成 29 年度	0.000463
	平成 30 年度	0.000347	令和 1 年度	0.000370
	令和2年度	0.000479	令和 3 年度	0.000391

(単位 t-CO2/kwh)

《西部ガス》 平成 24 年度～27 年度 0.00227 平成 28 年度 0.00225
平成 29 年度・30 年度～令和 3 年度 0.00227 (単位 t-CO₂/ m³)

放送番組・イベントを通しての環境に関する情報提供(番組など)

(2021 年度以降)

■テレビ番組

「世界一の九州が始まる！」(熊本放送 制作分)

○2022年6月19日放送 マイクロプラスチックごみを食い止めろ

プラスチック製品の劣化などが原因で排出される。直径5ミリ以下のマイクロプラスチックのごみ。この微細なゴミが街から川、そして海に達すると、生態系を含めた海洋汚染、ひいては人体に影響する恐れがある。熊本市の「サステナブルジャパン」代表の東濱孝明さん(38)が取り組むのは「マイクロプラスチックごみ回収装置の開発」だ。きっかけは、あるコメ農家から「用排水路を流れるプラスチックごみを回収できないか」という相談を受けたこと。

コメの栽培では肥料分をプラスチックで包む被覆肥料が多く使われる。肥料分が徐々に溶け出すため、毎日肥料をやる手間が省けるなど、作業の効率化につながるためだ。だが、使用後のプラスチック部分は用排水路に排出されてしまう。装置の開発に打ち込む、東濱さんを追った。

○2022年2月13日放送 地球に優しい「薪ビジネス」

かつては、囲炉裏やかまど、風呂の熱源など日常で使われていた「薪」。一時は衰退したが、近年はその温かみや地球温暖化防止の観点から薪ストーブなどを使う人が増え、供給が追い付かない状態になっている。薪は伐採した木材を自然乾燥させる手法が主だが、九州の高温多湿な環境では使える状態になるまでに1～2年かかる。これに目を付けたのが独自の「乾燥システム」を開発した阿蘇市の「九州バイオマスフォーラム」。開発者の薬師堂謙一さん(66)は、40年以上バイオマス研究に取り組むエキスパートだ。「薪」ビジネスの可能性を追った。

○2021年12月19日放送 一瞬で未来を変える!? 驚異の稲妻パルスパワー

アジやサバなどの生魚の身に潜み食中毒を引き起こす寄生虫、アニサキス。その厄介者が寄生する生魚に‘雷のような巨大電気エネルギー’を放射することで、味は損なわずにアニサキスだけを撃退させるという‘殺虫装置’が今、国内外で注目を集めている。この装置のカギを握る技術と言うのが「パルスパワー」だ。パルスパワーとは一般家庭のコンセントから取得できるレベルの電力を専用装置で圧縮・蓄積した後、まばたきの1000分の1という‘瞬間’で一気に‘放出することによって生じる強力な電気エネルギー。その’一撃’は同じ瞬間において生み出される九州・沖縄の総電力量に匹敵するという。熊本大学工学部の浪平孝男さん(48)の研究室では、レタスにパルスパワーを与えて光合成を促進させたり、古いコンクリートを分解し再利用につなげるなど、民間企業を中心に持ち込まれるアイデアを具現化すべく多様な試みが行われている。アイデア次第で無限の可能性を秘めるパルスパワー。浪平さんが描く、パルスパワーを活用した未来に迫る。

○2021年8月15日放送 里山発！進撃のインテリアブランド

築後川の源流があり、町の8割以上は森林という熊本県阿蘇郡小国町。のどかな風景広がるこの農村で生み出される商品が今、東京をはじめ国内外の企業や富裕層の注目を集めている。人気のポイントは海外ブランドの商品を思わせるようなクールでスタイリッシュなデザイン。メインに使う材料は

250年以上前から地域で守られてきた特産品「小国杉」だ。手がけるのは2016年創業の地元企業「フォレック」。実家の製材所を継ぐため10年前に東京から故郷に戻ってきた社長の穴井俊輔さん

(39)は、「衰退しつつある林業を守るために何かしなければ」という思いがあった。そこで考えたのが目の前に広がる阿蘇地域の「自然と人のつながり」を世界観にしたブランドの構築、そしてそのコンセプトを家具やWEBサイトのデザインなどの「形」に表現してくれるクリエイター、職人らを「巻き込む」ことだった。「地方からでも」クリエイティブなものは生み出せる」。地域のため、未来のために頭をフル回転させる穴井さんを追う。

○2021年6月20日放送 きらめけ！廃材アクセサリー

熊本県八代地方は、昔からの畳の材料であるイ草の産地だ。現在も、生産量は日本一。しかし、生活様式の洋風化や景気低迷…さらに安価な輸入品に市場を占められるなどして畳の需要は減少し、生産農家も少なくなっている。「国産のイ草の良さを広く伝えたい」そんな思いで新たな消費を生み出したいと活動しているのが、熊本市在住の2人組「itiiti(イチイチ)」だ。彼女らは、10年ほど前から様々な素材の廃材を使ってミニ家具やアクセサリーを制作する活動をしている。この数年は「イ草で作ったアクセサリー」が中心だ。使っているイ草は、畳に使われないもの。農家にとっては「廃棄するもの」だ。ところが、彼女たちの手にかかれば、刻んで、紡いで…イ草が思いもよらない姿に変貌してしまう。数ミリのイ草の粒を集積させたアクセサリーだ。とても柔らかな感触でイ草独特な香りがする。東京で行われたバイヤー対象の商談会での反応も上々。そんな彼女たちのモノづくりに対する姿勢に興味を示した他業種からはオファーが相次いでいる。「私たちが作るアクセサリーで素材の背景を届けたい」意気込む2人の挑戦を追った。

「新 窓を開けて九州」(熊本放送 制作分)

○2022年5月22日放送 われら茅葺職人四世代

熊本県高森町にある「阿蘇茅葺工房」は、上田龍雄さん(46)の祖父・本田末保さん(95)が70年前に立ち上げた。元々サラリーマンをしていた龍雄さんだったが、茅葺屋根が急速に姿を消す中、伝統技術を絶やしてなるものかとの思いから、祖父や父の技を継ぎたいと、25歳で茅葺の世界に入った。今や工房の作業の中心を担っている。茅葺の素晴らしさには自信を持っている。去年夏に葺き替え作業を行った築140年以上の民宿。元々や茅葺屋根だったが、管理が大変ということで、長年トタンをかぶせていた。今回、本来の茅葺屋根に戻す作業をする際に出てきたカヤの一部が、十分に再利用できるものであったのだ。かつての職人の技。そしてカヤという素材の素晴らしさ。さらに工房にとって嬉しい出来事が重なった。龍雄さんの長男・龍貴さん(17)が父を追いかけ、茅葺職人として生きる決意をしたのである。実に職人四世代が生まれた。春が近づく頃、茅場に火を放つ。野を焼き草原を維持、そこから茅葺が始まる阿蘇の大自然の循環だ。大自然を背景にした茅葺の現場と四世代の姿を追った。

≪その他の番組≫(テレビ)

○「第20回 エコ電レース大会」 2022年10月29日放送

「日本EVクラブくまもと」が技術を探求する学生に、自動車交通におけるクリーンエネルギー、その有効利用を目的として提供する「エコ電カーレース大会」。

競技を通して「モノ作りの苦勞」「チームワークの大切さ」「エネルギーの尊さ」「ボランティア活動」を体験し、21世紀に生きる地球人として、環境・エネルギー問題に実践的な取り組みができる若者を育てます。

■イベント

○「みどりと遊ぼう！立田山グリーンウォーク」 毎年秋開催(2022年は10月8日開催)

熊本市内にある自然林・立田山を親子で歩き自然の恵みに触れ、自然の大切さを伝える体感型イベント。当日、「緑の募金」活動を実施、集まった募金は全て熊本県緑化推進委員会を通じて、緑の保全活動に役立てています。

■SDGsに関する情報発信

RKK は「SDG メディア・コンパクト」に加盟、熊本県内のさまざまな取り組みと SDGsの重要性を人々に伝え、SDGsの普及・拡大と持続可能な社会の実現に貢献していきます。

ORKK SDGsサイト

https://rkk.jp/sdgs/#sdb_con03

○「夕方Liveゲツキン！」企画アーカイブ

<https://rkk.jp/sdgs/archive.html>

【この件に関する お問い合わせ先】 〒860-8611 熊本市中央区山崎町 30

株式会社熊本放送 総務局

電話 096-328-5540